

人権作文コンテスト 入賞作品

最優秀賞

『ジェンダーとトイレについて考えた』

清和台中学校2年 中山 美彩さん



この春私は二つの大きなニュースに関心を持った。一つは、東京の複合施設のビルにジェンダーレストイレができたというニュース。もうひとつは、経済産業省で働いているトランスジェンダーの女性職員が女性トイレの使用を制限されたことを違法として国を訴えたニュース。どちらもトイレに関する問題で、女である私にも、少なからず関係がある話だと思い、気になっていた。

東京にできた「ジェンダーレストイレ」一見男女、障がいの有無、年齢に関係なく、誰でも利用できて、平等で画期的な取り組みのトイレだと言える。

幼い子と保護者が同じトイレを使えること、年離れた親や障がいのある人の介護者が異性の場合でも、気兼ねなく近くまで行って介護やお世話ができること、そして、何より、トランスジェンダーの人が「性の区別」で嫌な気持ちにならずに、迷うことなく利用ができること。いくつもの利点があるトイレだと思った。

でも私は「ジェンダーレストイレ」は使いたくないし普及することに反対だと思った。理由は、異性の人がいたら気まずいし、とても怖いからだ。排泄をするときに「音姫」という機械で音がもれないように気をつかっている人も多いと思うが、同じ女性しかないトイレでも気をつかっているのに、異性がいいたら、恥ずかしいしとても気まずい。そして、今、もし、女子トイレに男性がいいたら、危険な人だと判断ができてすぐに通報できる。だけど、ジェンダーレストイレだと、その人が危険な人なのか、単なる利用者なのか判断できない。犯罪者だったとしても言い逃れができてしまう。とても怖いし、そのようなトイレは不安だし使いたくない。だから、そんなトイレが身近にできて、どんどん増えていったら怖いと思っていた。

そんな時、トランスジェンダーの元男性の女性が、トイレの使用を制限されたとして国を訴える裁判を起こしているという知り、どんな判決が出るのか、とても興味を持った。最高裁の判決は、「その職員に女性用トイレの使用を制限したことは違法」というもの

今年度も多くの小・中学生の皆さんから、ご応募いただきました。その中から入賞されました3作品をご紹介します。



判決について調べると、「不特定多数が使用する公共施設について触れるものではない」と補足意見があり、駅や公園などのトイレにまで拡大して解釈するのは誤りであった。そして、この判決が出た理由として、トランスジェンダーの人権や権利だけでなく、この職員が女子トイレを使っていた期間にトラブルが全くなかったことや、職場の人たちにトランスジェンダーへの理解を深める行為を怠っていたこと。この職員が手術をしていないのは健康上の理由でもあったことなどを知ることができた。しかも、この判決は8年もかかって出たということも分かった。

最高裁の判決をニュースで知った時、びっくりして驚いたけれど、調べていくうちに、判決は間違えていないように思えてきた。私は今回、このニュースのことをインターネットで調べたり、両親に聞いたりして中身を知ることができたが、もし何も調べずにいたら、今とは違う考えになっていたと思う。テレビの短い言葉、SNSの一文だけをとりえて、事実を知らなければ、本当のことをとらえることができなかったと思う。

今、私は、この判決を聞いて、この職場の女性たちは、納得しているのか、安心に思っているのか、そこが一番気になっている。どんな判決が出ようと、日々そこで過ごしている人が安心して過ごせることが一番だと思うので、今回、私が色々調べ、いろんなことを知ったように、この職場の人たちも、お互いが納得し安心できるようにお互いのことを知っていく努力が必要なのではないかと思った。そして8年も裁判で戦ってきた職員には「よかったですね」と言いたいと思う。

さて、東京の「ジェンダーレストイレ」。多くの批判のもと廃止された。画期的な取り組みだったけど、いつか誰もが安心して利用できるトイレができたらいなと思う。



だった。私は、とてもびっくりした。

本当は男なのに「心は女性です」と言えば女子トイレを利用することが許される？私は本当にびっくりして、信じられなかった。どういうことなのか、そのニュースを調べることになった。調べると、国を訴えたトランスジェンダーの職員は、戸籍は男性であるけれど、「性同一性障害」の診断を受けていた。性転換の外科手術こそしてはいなかったが、ホルモン治療を受けていて、職場にもそのことを説明し、女性の名前を使い、女性用の更衣室や休憩室を使い、周囲の人も女性として受け入れて、女性として働いていたことだった。

優秀賞

『私らしくいられる友だち』

けやき坂小学校5年 西廣 光桜さん



私は、友だちに「なんでいつも男の子とばかり遊んでるの。他の友だちには、女の子なんやからもっとかわいい性格になりにや、男の子みたいやで。」と言われたことがあります。

私は、その時、「女の子だったならなんでかわいい性格じゃないといけないの」とき間にも思いました。また、自分をひ定されたように感じ、いやな気持ちにもなりました。

私は、確かに男の子の友だちの方が多くいけれど、ようち園のころから仲良しだったり、小学校でぐうぜん気が合ったりしただけで、絶対に友だちは男の子がいいというわけではありません。

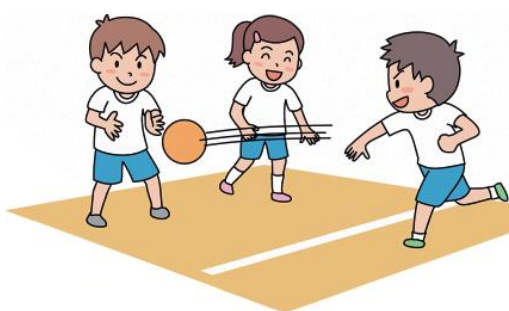
私が小さいころは、女の子だけのグループに少しの間、入っていたけれど、その時は、リーダーが「これ、かわいいよね。」と言ったら、あまりかわいくないと思っていても、「うん。」と言わないといけないようなふんい気度で、「私はあんまり好きではないな。」などと言えなくて、ぎゅうくつに感じていました。

今の友だちには、いやなことば、「やめて」とすなおに言えるし、おたがいに言い合えます。他にも、ふざけてゲームでだれかがズルやじやまをしていたら、「あかんぞ。ファウル、ファウル。」のように、みんなで注意をするけど、楽しく遊べます。私の性格に合う友だちが男の子だったというだけで性別で友だちを決めてはいません。

もし、女の子だから女の子としか遊んでいなかったら、今の友だちとも仲がよくなかったと思います。さらに、リーダーの顔色をつかがいながら気をつかってビクビクしながら遊んで、全く楽しくなかっただろうなと思います。

相手に性格を無理して合わせると本当の自分ではなくなってしまうと思いました。その自分で友だちができたとしても、本当の友だちにはなれないと思います。私はかわいい物も好きだし、おにごっこやゲームも好きです。好きな物を性別で決めつけないでいいです。

これからも性別にこだわらずに、自分の好きなことを好きと言って、自分らしくいみたいです。



優秀賞

『「おんなのこだから」を読んで』

久代小学校2年 時松 椰さん



どうとくの間、先生が、「おんなのこだから」という絵本を読んでくれました。この絵本を聞いて、考えたことを書きます。

おそっやせんたく、「おんなのこだから、おとんと、妹のせわ、女の子だからあらまゑ？」と書いてありました。わたしは、ほかの人も、やると思います。なぜかという、おてつだいが、すきな人、男の子もいると思うからです。あと、女の子だからひかえめに？と書いてあるのも、元気な人は、楽しく、わいわいやっていいと思います。なくんじやない男だろーと書いてありました。男の子でも小さいときはなくし、大きくなってもかなしいときはなくと思います。「おんなのこだから」は、べつに、やりたいこと、したいことも、じぶんが「やっていいんだ」と、思うならそれでいいと思います。

「あなたはと思う？」は、わたしは、べつに、ひかえめとか、女の子だからというのではなく、じぶんがしたいこと、していいと思います。

